

## 令和2年度 美術学科 FD・SD 研修会①

目的：学科の学位プログラムレベルと科目レベルで学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）することにより、教育の改善を図る。

日時：令和2年9月15日（火）15：00～16：30

講師：権田宜子 新井浩

参加者：東田 権田 堀 本山 新井 大谷 和田 大場

前年度に実施した学生アンケートの集計並びに今年度の授業評価が揃ったことを受け、美術学科としてのカリキュラムや授業評価について振り返り、教員間の情報を共有した。

美術学科でもコースの特性や授業内容から、GPA 値の基準が担当教員によってばらつきがあったことから、冒頭に新井より青森中央短大 FD の資料を引用し、絶対評価と相対評価の柔軟な運用と GPA 値の適切な分布についての話題を提供した。また、後期の授業準備にあたり、改めて授業評価についての意義と、ルーブリックを用いた到達目標の明確化、授業の進度にあわせて学生へフィードバックを行い、学習成果が上がっていくような授業設計や運営方法についても話し合った。

ルーブリックを用いた授業評価は4種類あり、①学生が自分の成長や目標を振り返る自己評価②学生が同級生に対して意見を行う評価③教員が学生の到達度を言語化し、具体的にどう行えば改善していくのかフィードバックする評価④教員が教員に対し、授業内容や取り組みの評価を行う、というものである。美術学科では④に関してまだ実施体制が充分とは言えないので、お互いに授業評価をすることに抵抗がある場合、授業実施計画をお互いに評価する機会もあっていいのではないかと感じた。

最後に、前期の遠隔・対面授業を振り返り、前期の授業運営の総括を行った。美術学科の遠隔授業では、時間割にそって学生と LINE で連絡を取りながら Google ドライブで課題の明示と Gmail で確認し、Zoom でのグループディスカッションやコースによっては公開オーディションを実施した。この状況に対して教員が協同し、話し合いを重ねながら運営したことで、対面になっても授業がスムーズに移行し、前期の成績評価をすることができた。

午前中に開催された FD・SD 研修会での Google Classroom の利用方法についても話題となり、美術学科での今後の活用については、状況に応じて検討していきたい。

